



私たちの行く道

世界子孫代理人会(WARD)を背負っておられた渡辺英男会長が急逝されて早1年になります。青天の霹靂のごときショックから立ち上がろうという意欲が起こるまで1年近くかかったという実感がありますが、渡辺会長が四半世紀に亘って築いてこられたWARDを私たち自身の活動に生かせる道を考えてみねばなりません。

私が渡辺さんとお知り合いになったのは、1985年に名古屋で国際養蜂会議をやろうという、日本養蜂はちみつ協会(現在の日本養蜂協会)の活動を通じてでした。ミツバチとのつきあいというご縁の他に、私は平和のためには國のエゴを捨てて、世界連邦を作るべきだという運動にも携わっていましたから、渡辺さんの考えに共鳴するところが多く、やがて、WARDの活動を共にさせていただくことになりました。



「未来を奪わないで」表紙写真

子孫に代わって提言する「地球環境保全の処方箋」というのは、渡辺さんの著書「未来を奪わないで」の副題ですが、この本には、処方箋として具体的な考え方が提言されていますので、これに沿って、というか、原点に戻って考えてみたいと思います。渡辺さんは、4つの確認から始めています。

1. 私たちは有限の地球に生きている。
2. そこでの生命権は危機に瀕している。
3. 誤った生き方は即刻正さねば手遅れになる。
4. 一人一人が変わらねばならない。

私自身は、これらの認識に立って、平和と文化を考えるという立場をより多くの人と共有できればと考えて、ユネスコ協会という組織に入って活動することが増えてきました。

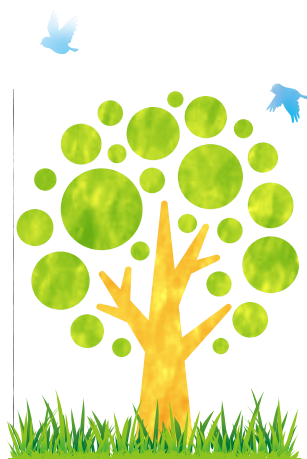
ユネスコというのは、正式名称(和名)を国際連合教育科学文化機関といて、人類が戦争の惨禍を繰り返さないようにと1946年に創設されたもので、国際平和と、人類共通の福祉という目的を促進するために創設されたのです。日本の各地に270あまりのユネスコ協会あるいはユネスコクラブという名で組織化されていますから、皆さんの近くにもみつかるのではないのでしょうか。

最近の活動では、「持続可能な開発目標(SDGs)」を示して教育を考える「ユネスコ・スクール」というしくみを作っていくことが薦められており、そこに挙げられた17の目標には、WARDの掲げる環境保全項目が数多く含まれていますから、手を携えて行けるのではないかと感じられるのです。

WARD副会長 松香 光夫

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



ユネスコによるSDGs一覧(国連広報センター・ホームページより)



渡辺会長を偲んで

銀座ミツバチプロジェクト



理事・渡辺英男さんが、癌のために昨年9月18日逝去されました。思い起こせば2006年銀座ミツバチプロジェクトがスタートしたばかりの5月に当時東京都養蜂協会矢島理事長とお二人で訪ねてこられて、「ぜひ東京都養蜂協会に入会下さい。アウトサイダーにならずに組合に入ったほうが良いよ!」とお誘いを受けたのが昨日の事のように思えます。

渡辺さんは獣医として飼料会社に入社されて以来、日本の畜産農家の指導を通して所得の改善などを目指してきました。しかし、大規模になっても農業には難しい課題が付きまとい、ある時を境に仕事を辞めて今後何をするかと言う時にミツバチに出会いました。養蜂は地球環境に負荷をかけず自然と共生する、とても重要な仕事に巡り合ったと、突然養蜂家の道を歩み始めたそうです。

そして海外の養蜂事情を知り、アピモンディア(国際養蜂協会連合)に入って世界の養蜂家と知り合いになりました。間もなく、日本人として初めて理事に就任し、その時に採決したことの一つが「都市養蜂」の普及でした。都市は地球にとってガン細胞のようなものだが、都市の中にミツバチを飼うことによって少しでも環境を良くすることができる。この提案をした渡辺さんが、銀座ミツバチプロジェクトを耳にして是非応援してやろうと常に傍らでアドバイスをしてくださいました。

以来、私たちの活動で行き詰ったり、悩んだりした時は常に渡辺さんに相談して解決の糸口を見つけてきた12年でした。

「何をするのでも、ミツバチが導いてくれるし、ミツバチを飼っていると助けてくれる人が集まってくるから、田中さん、安心下さい。」といつも励ましてくれました。今では私も東京都養蜂協会の理事として、様々な課題で考えるときには渡辺さんならばどうすると考えて意見を言うようにしています。

もう一つ、渡辺さんの活動で欠かせないのが、世界子孫

代理人会(WARD)の存在です。当時、環境問題などでは常に富める国と貧困の国々に対峙する南北問題が主流でしたが、渡辺さんはより良い地球環境を誰のために残すのか、それはこれから生まれてくる子孫のためにこそ残すべきものだが、まだ生まれていない子供たちは意見を言うことができない。だから、この子孫たちの代理人として、美しい地球環境を残すように努力するというものでした。これは何の得もないし、誰からも褒められない活動だが、声なき人の声になることが大切なことだとおっしゃっていました。先のアピモンディアでも素晴らしい活動だとWARDの活動を支援してくれていたそうです。

こうして、渡辺さんはいつもミツバチのように弱い立場に立って社会を考える人でした。

多くの事を学ばせていただいた渡辺さんに私たちは無理を言って当NPOの理事になっていただきましたが、この夏ご自身の体調もあつたのかもしれませんが。

「もう歳だからやめさせてくれないか?」と言われたときに、「何を言っているんですか! 困りますよ!」と思わず答えました。「じゃあもう少しやるね…」とやり取りした会話が思い起こされます。日本の養蜂協会だけでなく世界でミツバチを飼う人々にとってかけがえのない方を亡くしたと思います。常に銀座ミツバチプロジェクトを応援してくださいました渡辺さんの言葉を心に刻み、ご冥福を祈りたいと思います。

理事長 田中 淳夫



* 銀ばち通信29号に掲載されたものです。

株式会社ビーハイブジャパンと養蜂

株式会社ビーハイブジャパンはWARDの創設者である故渡辺英男がWARD創設と同じ1992年にWARDの実践として立ち上げた会社で、その事業内容は養蜂及び養蜂製品の加工、販売です。会社のテーマは「希望と愛: 希望に胸をふくらませて大空へ飛び立ち、花を訪ねて実を結ばせ、大地に緑を増やすミツバチ達のように……」。WARDを念頭に会社運営をしてゆく気持ちがこのテーマに表れているように思います。



蜂飼いの仕事

人類が生きる地球の自然環境は虫たちがいなければ成り立たず、中でもミツバチは植物の花粉を交配し、実りをもたらす、緑を増やす重要な役割を担っています。ミツバチの産物が消費者に認められることはミツバチの代弁者である蜂飼いの意見が



良い香りの蜂蜜が採れました

認められることにつながり、延いてはミツバチが暮らしていける環境を守ることにつながります。ミツバチが暮らしやすい環境は人類が暮らしやすい環境でもあり、当社の業務は人類が生存するための自然環境を次世代に引き継ぐことにつながっているのです。

故渡辺英男は「養蜂天業」と題して次の言葉を遺しています。「養蜂は自然を整え、糧を恵み、命を支え、愛を育む 養蜂は天の仕事である 天業を天職とするは幸いである」

会社を引き継いだ私も未来を想いながら希望と愛に満ちた仕事をしてゆく所存です。

株式会社ビーハイブジャパン 蜂飼い 渡辺 宏

プラスチックごみ汚染

海洋生態系への影響

以前からレジ袋、コンビニの弁当箱、ペットボトルの蓋、お菓子のパッケージなどのプラスチックゴミが生態系、ことに海の生態系への影響を何とかしなければならないという問題が云われている。川や海に漂うプラスチックが汚染源になり、死んでいる海鳥の胃に大量に見られたり、カメなどの内臓に蓄積し斃死する現象がみられていた。

さらにプラスチックは海に漂っているうちに紫外線や波の力でだんだん小さくなり5mm以下になったものはマイクロプラスチックと呼ばれる。このマイクロプラスチックは海流などで流されて世界中の海に漂っていてその数は5兆個にも上ると推定されている。

マイクロビーズ

この他にもパーソナルケア製品(化粧品や洗顔剤を目的とした製品)は汚れや古い角質を落とす目的で使われている製品に配合されているマイクロビーズがある。大きさが数十から数百 μm の球状のプラスチックが配合されている。これらは洗顔後下水道から下水処理場で95%以上取り除かれる。しかし都会など古くから下水道が普及している所では雨水と下水が、下水処理場に運ばずに、川や海に未処理のまま放流される。これがいろいろな汚染の原因となっている。実際マイクロビーズが東京湾の海水から見つかった。この製品が環境汚染に大きな影響を与えているため、禁止することが世界的な流れである。

海洋生物によるプラスチックの摂食と生態系への影響

魚の胃から発見されるプラスチックはプランクトンと混ざって海の中を漂っていることから二枚貝、カニ、小魚などに取り込まれ、現在では世界中の多くの魚介類からマイクロプラスチックが検出されている。

プラスチックが周りの水の中から吸着した化学物質などには有害な化学物質が含まれるので、それらによる影響も懸念される。これらの有害化学物質の一部は魚の脂肪に蓄積される。室内実験ではそこに含まれる有害化学物質による、魚の肝機能低下・腫瘍、生殖能力の低下が報告されている。

実際に海底の泥中にはプラスチックの消費量の増加と対応して増加していることが世界的に明らかになっている。このまま海へのプラスチックの流入量を放って置くと今後20年間で10倍になるという予測もある。プラスチックは大変分解され難いため、プラスチック汚染とその残存年数はどれくらいかと云うといったん流入すると

数十年以上残留する。さらにマイクロプラスチックは小さいので回収不可能なため諸外国では予防的な対策が講じられ始めている。

現在行われているレジ袋の禁止が必要で、2016年9月にはフランスでプラスチック製品の使い捨て容器や食器を禁止する法律が成立している。わが国でもマイバッグを持ち歩きレジ袋をもらわないという運動もある。インスタント食品に頼らず食堂でたべることなど、一人一人が使い捨てプラスチックを使わないように自分の生活を見直すことが大事である。

さらに過剰なプラスチック包装を減らしていく流通の仕組みも必要である。

一方イギリスではマイクロビーズを使用した化粧品やパーソナルケア製品などの販売を7月21日に今年末(2018)までに禁止することを発表した。アメリカでは2015年12月、マイクロビーズ除去海域法が成立し、マイクロビーズを含む、水で洗い流すことができる化粧品を禁止することとした。イリノイ州では17年12月31日から販売も禁止になる。フランスでも2016年9月、プラスチック製使い捨て容器や食器を禁止する法律が成立し、その翌月の10月にマイクロビーズを含む化粧品アドの販売を18年1月1日から禁止する法律も成立した。

このように欧米の産業界は、政府による公的な禁止に先行して自主的な取り組みを進めている。しかし、日本では法規制に向けた動きはないが、日本化粧品工業連合会がようやく傘下1,100社に対して洗い流しのスクラブ製品に対して使用中止を促す文書を出したところである。今年の6月に開かれた国連海洋会議では「私たちの海と未来、行動の呼びかけ」と題した宣言が採択された。そこにはプラスチックごみによる深刻な海洋汚染を防ぐため、使い捨てのプラスチック製品やレジ袋の廃止を各国に求めている。日本もこのような国際的な規制の流れに追従していくことが不可欠で、行政レベルでもプラスチックの使用の規制を確実に行うべきである。

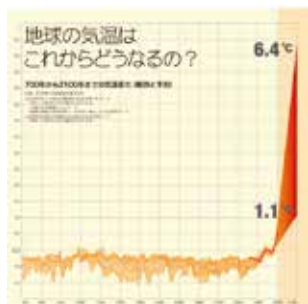
WARD 副会長 永井 伸一



地球温暖化問題に縦の平等を

現在、人類は様々な課題を抱えているが、その中でも特に深刻な問題が地球温暖化である。

過去100年間で地球全体の温度は0.3～0.6℃上がったと言われているが、今夏はそれを証明するかのような灼熱の猛暑だったことは記憶に新しい。この異常気象は地球と未来の子孫達からのSOS信号といえるであろう。人類は確実に破滅への道を辿っていることを認識しなければならない。



IPCC第4次評価報告書より出典

IPCC(国連気候変動に関する政府間パネル)によると、温暖化がこのまま進行した場合、2100年には気温が1.4～5.8℃上昇すると予測されている。もしそうなった場合、南極や北極に住む動物だけでなく、人類にも深刻な影響をもたらす。降水量が多い地域と少ない地域

の差がさらに激しくなり、降水量の多い地域では洪水が、少ない地域では干ばつが多発し、その土地に定住できない環境難民が発生する。世界銀行の発表によると2050年にはアフリカのサハラ以南、南アジア、中南米の3地域を中心に、なんと日本の総人口数を上回る1億4300万人が難民化するといわれている。また、干ばつにより農作物の収穫が減り食料難に発展する可能性も示唆されている。それ以外にもマラリアやデング熱などの伝染病が流行する地域が拡大する可能性があるなど、地球温暖化は世界共通の大問題といえるであろう。もはや猶予はなく、人類全体が協力し解決に取り組む必要がある。

しかし、世界共通の問題にも関わらず温暖化問題への意識には国家間の温度差が大きい。

温暖化問題の解決を困難たらしめているのは「横の平等」という価値観にある。産業革命に端を発した技術革新は人類に多大なる恩恵をもたらしたが、その恩恵は全世界にもたらされかといえれば答えはNOであろう。19世紀当時の列強諸国が我先にと資源を奪い合い、その略奪した資源によって今日の先進国となる礎を築いたのである。その結果、先進国、発展途上国という格差をそれまで以上に生み出した。当時、略奪された側である中国はその遅れを取り戻すかのように高度な工業化を果たし、GDP規模を30年前の8倍以上まで拡大させたが、膨大な石炭を消費することになった。なんと全世界が生み出す二酸化炭素の約10%を中国が排出しているといわれている。しかし、この行為を全否定することは出来ない。文化的な生活を送るため先進国にならんとする営為をどうして否定できようか。既に高度な生活水準を手に入れた先進国と発展途上国の間で温暖化問題に対する意識の差が出るのは自然の成り行きである。だからといって現状が危機的状況であることに変わりはない。負債を後世の

人類に丸投げしていることを我々は自覚しなければならない。

悪いニュースばかりではない。先述した中国は二酸化炭素排出量の削減に向け、グリーンエネルギー、グリーン融資、グリーン債、排出量取引制度など関連する政策や補助金制度を打ち出しパリ協定の目標達成も夢ではないといわれている。中国がグローバルリーダーとなり世界をグリーンプームに牽引してくれることに期待したい。2018年もあと数か月で終わりを迎えるが、今を生きる人類には未来を生きる子孫のため、横ではなく縦の平等を意識してもらいたい。

WARD会員 平田 洋一

お知らせ

◆ WARD 総会開催 ◆

昨年9月の会長ご逝去後、総会が開けない状況にありましたがようやくニュースレター51号を皆様にお届けするめどが立ち、遅ればせながら12月2日(日)に第27回WARD総会を開くことになりました。これからのWARDの活動方針を確認し合うと共に17年度の会計報告、新会長、新理事の選任を行いたいと思います。尚、準備の都合上、参加いただける方は11月16日(金)までにファックスでWARD事務局(下記)へ、または事務局長メールアドレス kunitomo@ati-jp.com までご連絡ください。総会の参加費は無料ですがその後の懇親会は実費となります。

記

- *日 時：12月2日〔日〕 14:30～16:30
 *会 場：アットビジネスセンター渋谷東口駅前
 渋谷区渋谷2-22-8 3階
 *渋谷駅そば。ヒカリエに向かって右側
 側道にあるビルの貸し会議室
 *プログラム：14:15 開場
 14:30 開会 議長選出 総会議事
 15:00 講演「日本におけるユネスコ協会の活動について」
 松香光夫 前玉川大学教授 WARD 副会長
 16:00 情報交換、スローガン唱和
 16:30 閉会 近隣の会場にて懇親会(実費要)
 *閉会後場所を変え、有志による懇親会
 を予定しています。是非ご参加下さい。
 *当日の緊急連絡先 090-9340-2939(事務局長・田中携帯)

◆ 会費納入のお願い ◆

2017年度の会費納入の郵便振替用紙を同封させていただきました。正会員の会費は1口(千円)以上賛助会員の会費は1口1万円です。納入は随意ですがご都合よろしければお願い致します。尚、領収証は振込時の領収控えで替えさせていただきます。

会費納入方法

- A. 銀行振り込み みずほ銀行自由が丘支店 普通2286776
 加入者名WARD
 B. 郵便振替 00100-3-659238 加入者名WARD

WARD 51号(2018年9月30日発行)

発行人 永井伸一 松香光夫 定価150円
 編集人 田中國智
 WARD事務局 〒152-0003 東京都目黒区碑文谷5-4-21
 TEL 03-5721-1992 FAX 03-5721-8383
<http://www.ward-ngo.com>